

小中学校における英語教育について

1 取り組みに係る経緯と現状

(1) 経緯

昭和58年	中学校ALT（1名）を配置。
平成15年	「英会話教育特区」として内閣府より認定を受ける。 中学校ALTを全校配置（11名）開始。
平成16年	モデル校（小学校5校）で、「英会話学習」を実施。 英会話学習スーパーバイザー配置。
平成17年	全小学校22校で「英会話学習」を開始。 小学校ALT9名、EAA12名の配置と巡回指導開始。
平成22年	英語検定（3級）の検定料の半額補助を開始。
平成24年	「足利市版CAN-DOリスト」作成委員会設置。
平成25年	EAA22名を全小学校へ配置。 英語教育アドバイザー（上智大学 吉田研作先生）を配置。 英語検定（3級～5級）の検定料の半額補助へ拡大。
平成26年	英語検定（2級～5級）の検定料の半額補助へ拡大。
平成27年	「足利市版CAN-DOリスト試行版」の活用を各学校で開始。
平成28年	英語検定（準2級～4級）の検定料の半額補助。
平成29年	「英会話学習指導計画改訂版」を作成。

(2) 現状

ア 小学校

- ①ALT、EAA を配置。全ての英会話学習の時間に、担任とチームティーチングを実施。
- ②新学習指導要領移行期間に伴い、平成 29 年度に改訂した「英会話学習指導計画」を活用して授業改善を実施。
- ③中学校入学時には「聞く力」が身につけており、聞くことに関しては、中学校英語科の授業に抵抗感なく取り組んでいる。

イ 中学校

- ①全校に ALT を配置。
- ②英検受験料の助成の実施。
- ③「足利市版 CAN-DO リスト」を活用し、生徒が具体的な目標をもって学習に取り組んでいる。

2 新学習指導要領

(1) 平成 30 年度から小学校、中学校ともに移行期間

(2) 平成 32 年度から小学校、33 年度から中学校が全面実施

(3) 小学校 3、4 年生において「外国語活動」の授業時数は年間 35 時間、5、6 年生において「外国語科」の授業時数は年間 70 時間

3 今後の英語教育のあり方

(1) 目指すべき子どもの姿

これまでの英会話学習の成果として「聞くこと」への高まりがみられた。今後は成果を継続し、活かしながら、児童が英語を使って自ら発信し、やりとりができる姿を目指す。

中学校では基礎基本の確実な定着を図り、卒業時には英検 3 級以上取得している生徒の割合 40% 達成を目指す。

(2) 英会話学習

英会話学習では国が示す時数に、全学年において各学年 10 時間を加える。

(3) 授業の改善

(4) 小中学校の連携